



食環協 ニュース 125

編集／発行 公益社団法人食品容器環境美化協会

〒108-0023 東京都港区芝浦2-15-16 田町K・Sビル6階

TEL 03-5439-5121 FAX 03-5476-2883 HP <http://www.kankyobika.or.jp>

地域のために、地域とともに行う美化活動を表彰

「第15回環境美化教育優良校等表彰式」が開催されました

去る1月30日(金)、「浅草ビューホテル」(東京都台東区)3階「祥雲の間」において「第15回環境美化教育優良校等表彰式」が開催されました。15回目の節目を迎える今年は、表彰校の児童生徒および教職員を始め、行政や飲料団体関係者、各地域の報道機関など多数の参加をいただきました。朝から雪が降り続く寒い一日となりましたが、会場は功績を称える盛大な拍手とともに温かい祝福ムードに包まれました。

この表彰は、環境美化教育に独創的、継続的かつ熱心に取り組み、「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践し、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校等を選出し表彰するものです。

本年度は、42都道府県から推薦を受けた小・中学校42校の中から、審査会による厳正な審査を経て、最優秀賞となる「文部科学大臣賞」「農林水産大臣賞」「環境大臣賞」「協会会長賞」の4校が選定され、表彰の運びとなりました。なお、優秀校6校、優良校32校の表彰校については、P9に掲載されています。



表彰式・懇談会レポート

表彰式では冒頭、当協会の構成団体であるアサヒビール株式会社常務取締役の塩澤賢一会長があいさつし、表彰事業の歴史や意義などについて述べました。その後、賞状授与に先立ち、表彰校4校の活動内容をスライド映像で紹介。各校の児童生徒が住民と連携して、地域の特徴を生かした環境美化活動に取り組む様子が動画やスライドを通して披露されると、参加者はメモをとりながら熱心に視聴していました。

賞状・副賞授与に続いて、審査委員長の小澤紀美子・東京学芸大学名誉教授が登壇。審査のポイントに触れながら講評し、「科学的根拠を踏まえた環境美化活動であると同時に、地域の皆さんと一体感を熟成していきながら、地域が屋根のない学校になって、活動への共感を広く発信していくことが大切」であることを強調しました。



また、来賓として出席された文部科学省の荻野雅裕氏、農林水産省の長野麻子氏、環境省の大竹敦氏からは、「教科横断的な環境教育や地域住民と取り組む美化活動を通じて児童生徒が心豊かに成長し、今後も継続されることを期待しています」と祝辞を賜りました。

表彰式典後は、東京スカイツリーが一望できる28階「ベルヴェデール」に場所を移し、なごやかに懇談会が行われました。塩澤賢一会長のあいさつ並びに乾杯の後、懇談会がスタートすると、参加者の各テーブルでは食事や飲み物を囲みながら、あらためて受賞を祝福する声があがったり、活発な意見が飛び交ったりと、終始歓談の花が咲いていました。途中、受賞校の児童生徒によるスライドを使った環境美化活動の紹介があり、中には小道具を使った説得力のあるスピーチや寸劇を披露する学校も登場し、会場を大いに盛り上げました。

■ 出席者のスピーチ（要旨）

住民と一体感を熟成しながら活動への共感を発信し、 地域が屋根のない学校に

審査委員長 東京学芸大学名誉教授 小澤 紀美子氏



今年最優秀校に選ばれた学校においては、いずれも地域のおかれた環境や文化を踏まえ、先輩たちの活動を継承しながら、住民とともに環境教育や地域の豊かな資源に着目した教育の中で展開されていました。もちろん、本表彰事業の目的でもある環境美化の点についても、アルミ缶やペットボトルの回収、海岸や道路の清掃などを通じて、学校の授業と連動した「ふるさと学習」としての広がりや学びがあり、ふるさとの環境美化に大いに尽力していることが評価されたことは言うまでもありません。これらの活動は、具体的な科学的根拠を踏まえるとともに、地域住民と一体感を醸成していくこと、すなわち、地域が屋根のない学校になることが大切であり、さらに周辺のみならず、活動への共感を広く発信していくことが重要だと思っています。

環境を守るという気持ちを持って、心豊かに成長することを期待

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教育課程第二係長 荻野 雅裕様

環境問題は、人類の将来の生存と繁栄にとって緊急かつ重要な課題です。文部科学省では、現行の学習指導要領において、学校における環境教育を推進するために、社会科や理科、技術家庭など関連の教科を中心に内容を充実させており、教科横断的な学習として総合的な学習の時間でも多くの学校が環境教育に取り組んでいるところです。本日、文部科学大臣賞を受賞した下橋中学校の取り組みは、その効果が学校のみならず地域全体に及んでいるというところが、私自身非常に感動うれしく思いました。環境問題についての科学的な理解を深め、ものを大切にする、限りある資源を有効に活用することなどを通して、自分が責任を持って環境を守るという気持ちを持って、心豊かにたくましく未来を担う人間に成長されることを願っています。



美化活動で愛郷心を育み、 そのつながりを紡いでいくことが地方創生を支える

農林水産省 食品産業局 バイオマス循環資源課 食品産業環境対策室 室長 長野 麻子様

農林水産大臣賞を受賞された徳島県三好市立西祖谷中学校においては、全校生徒12名という限られた人数の中で、住民と一体となって文化財のかずら橋や地域を守り、地域への愛着が湧くことで、ふるさとを誇りに思う気持ちが芽生えていることに大変感動いたしました。いま、政府は地方創生を掲げ、地域を元気にしようとさまざまな施策に取り組んでいますが、今回の受賞校のように地に足の着いた取り組みが愛郷心を育み、そうしたつながりを紡いでいくことが地方創生を支えることになるのだろーうと思いました。5年後には、世界各国から大勢の人たちが来日する東京オリンピックを控えています。日本は美しい国だと多くの方々に思ってもらえるように、みなさんには環境美化活動を続けていただき、それが全国に広がることを願っています。



地域から全国に広がる環境保全活動がいちばん重要

環境省 大臣官房 廃棄物リサイクル対策部企画課 リサイクル推進室 室長補佐 大竹 敦様



環境省では、原始的な自然から身近な自然までそれぞれの地域に根ざした自然環境の保全を行ったり、地球温暖化対策に取り組んだりしています。私は、環境活動というのは、たとえどんなに小さなものであっても一人ひとりの行動が重要で、地域住民や様々な人たちと連携して行うことでより効果を発揮すると思っています。今回受賞した皆さんの取り組みは、まさに私が考えている環境活動そのものでした。また、あらためて環境保全活動の最前線にいるのがみなさん達だということを、先ほどの活動紹介の映像を見ながら確信しました。環境省では、みなさん方のそうした活動や気持ちをサポートできるように、一層取り組みを進めていきたいという認識を新たにしました。ぜひ、こうした気持ちを大事にしてこれからも環境保全活動を続けて下さい。

■ 最優秀校の活動紹介および出席者インタビュー

地域を巻き込む生徒主体の美化活動と環境学習で実践力育む

文部科学大臣賞 ^{しものほし} 岩手県 盛岡市立下橋中学校



明治20年に創設された同校は、県内で最も古い歴史と伝統を生かしながら、地域に根差した美化やリサイクル活動に積極的に取り組んでいる。とくに、盛岡さんさ踊りの祭り期間に実施する「地区合同清掃」は、住民や近隣の小学校と連携して行う美化活動で、昨年は500名余りが参加した。一大行事にもなっているこの取り組みは、生徒会の組織の一つ、地区生徒会が中心になって計画を立て、地域へ清掃協力依頼をし、関係団体と数回の打ち合わせを経てから行われる。環境美化を通じて住民と交流の機会を設けているのが最大の特徴で、地域の活性化につながり、小学生の良い手本にもなっている。同時に、「森は海の恋人」や間伐の体験学習など、学年ごとに環境への理解を深める総合的な学習「SHEL学習」を展開。毎年実施するエコシンポジウムやエコ学習では、生徒会組織のエコ委員会活動と連動させながら環境テーマを決めて開催する。不要なものは買わないリフューズを意識した4Rも推進し、日常生活の中で環境を思いやる心が育っている。

岩手県盛岡市立下橋中学校のみなさん

「長い間受け継がれてきた下橋中の伝統の一つである清掃活動やエコ活動を評価して頂き、とても誇りに思います。これからも、最優秀賞を受賞した学校として他の学校の模範となるように活動を続けていきたいです。また、ボランティア活動も広めていけたらいいなと考えています」

岩手県関係者および岩手地方連絡会議員 みちのくコカ・コーラボトリング(株)営業企画部 PRグループ 岡田 雅文氏 (写真左)

「地域コミュニティーが希薄化している今、町の中心部にある下橋中学校さんが、住民とコミュニケーションを取りながら様々な環境美化活動に取り組んでおり、それが地域全体に波及している素晴らしい活動だと思います。受賞を機に、啓発活動に励んでほしいと願っています」



美化活動を通じ地域の宝を継承する頼もしい存在

農林水産大臣賞 ^{にしいや} 徳島県 三好市立西祖谷中学校

平家の落人伝説が息づく祖谷の山里にたたずむ同校。12名の全校生徒が、校区にある重要有形民俗文化財の「祖谷のかずら橋」や祖谷川の環境美化や保全活動に取り組んでいる。かずら橋周辺の清掃活動では、国内外から訪れる年間約40万人の観光客に笑顔で橋を渡ってもらいたいとの思いを一つにして、数時間かけて空き缶やペットボトルなどの回収・分別に励む。また、地域住民や自治体と連携しながら、かずら橋の保全活動にも参加している。橋は、シラクチカズラで作られているが、天然の材料が激減していることから、住民の指導の下、生徒はシラクチカズラの植え付けを実施。同時に、総合的な学習の時間を利用して、その橋の下を流れる祖谷川の水質や水生生物調査など科学的な方法で環境について学習する。こうした美化活動を通じ、ふるさとへの誇りが芽生えた生徒は、外国人観光客向けに地域を英語で紹介するガイドマップを作成。積極的に観光案内役を務めるなど、生徒の心には祖谷の自然や文化遺産を守るという強い意志が培われている。



徳島県三好市立西祖谷中学校のみなさん

「私たちが活動してきたことがいろんな人たちに認められたことをとてもうれしく思います。少ない人数で美化活動を続けていくのは大変ですが、今回の受賞はこれからも続けていく上での大きな励みになりました。今後は、水の力を利用した水力発電にも取り組んでみたいと思っています」



徳島県関係者および徳島地方連絡会議員

大塚製薬(株) 徳島本部環境・安全部 課長 朱 吉男氏(写真中央)
四国コカ・コーラボトリング(株) 徳島支店 支店長 渋谷 純一氏(写真左)

「今回の受賞をきっかけに、徳島の自然や文化財、環境への取り組みを紹介できたことをうれしく思います。少ない人数の中で助け合って地域の皆さんと協力しながらボランティア活動に励んでいる西祖谷中の素晴らしい活動を、今後もアピールしてさらなる環境保全につなげていきたいです」

日ごろの環境活動が地域との信頼関係や地域愛を育てる

ひろやすにし
環境大臣賞 熊本県 益城町立広安西小学校



「ごみの削減」「水の節約」「電気の節約」を掲げ、住民や地域の企業と連携しながらさまざまな環境活動に取り組む同校は、環境教育先進校として県内の小中学校の模範となっている。ごみの削減を推進するために、3Rにリペア、リファインを加えた5R運動を独自に展開し、「広西ゼロ・ウェイスト作戦」では、全校を挙げて日常生活の無駄をゼロにする取り組みを行う。こうした活動を地域へ広く発信するために、校区内の産業展示場「グランメッセ熊本」と共同で環境活動を実施。同会場で開催される環境フェアには同校がブース出展し、日ごろの取り組みを児童が紹介するなどして啓発を図っている。また、地域のエコ活動にも積極的に参加し、校区内外の清掃活動や、住民と共同でアルミ缶やスチール缶などの有価物回収に励んでいる。地域環境に関心が向いた児童は、校区に点在する阿蘇からの湧き水が出る「水基」といわれる水飲み場を清掃することを提案し、休日に実践している。日々の活動を続ける中で、環境保全の意識が着実に根付いている。

熊本県益城町立広安西小学校のみなさん

「私たちが日ごろやってきた取り組みが評価されて、とても誇りに思います。これからやっていきたい活動は、やはりきれいな湧き水を未来に残していきたいので、もっと地域住民に広くよびかけて知ってもらったり、湧き水と触れ合いながら美化活動を行ったりしていきたいです」

熊本県関係者および熊本地方連絡会議員

コカ・コーラウエスト(株) CSR統括部 CSR推進部 森高 吉宏氏(写真左)

「全校を挙げて学校版環境ISOの取り組みを進め、6つのエコ活動を児童にもわかりやすく明文化しながら行っている環境活動は、他校の模範となっています。この受賞を機に、広安西小の取り組みが全国に広まり、環境意識が高まって持続可能な社会の発展に貢献できればうれしいです」



地域の一員として励む“1部活動1ボランティア”

食品容器環境美化協会会長賞 ^{やしろ} 福井県 福井市社中学校

部活動単位で地域のいろいろな活動や行事にボランティアとして参加する「1部活動1ボランティア」は、同校独自の取り組みとして県内外から注目を集めている。年間18回にも及ぶ地域活動の中には、校区内の清掃活動を始め、小学校のビオトープ整備作業や、緑道沿いのイルミネーション制作といった環境美化全般にかかわる取り組みが揃っている。住民と共同で実施する「あじさいロード」の美化活動は、野球部員などが参加。空き缶などを回収するだけでなく、アジサイの手入れにも励んでおり、手間のかかる作業が短時間で済むと住民から感謝の声が挙がる。また、冬季に開催されるイルミネーションは、科学部が制作・設置、撤去に力を注ぐ。その点灯式では放送部が司会進行を務め、吹奏楽部が生演奏を披露し、会場を盛り上げるなど、中学生が主体的にイベントを動かしているのが最大の特徴だ。こうした一連の活動を通じて、地域の一員であるという自覚を持った生徒たちは、「ごみ拾い隊」を結成し、地域の環境美化に大きく寄与している。



福井県福井市社中学校 校長 月田 稔氏

「普段やっている環境美化などのボランティア活動が全国で認められたことは、大変うれしい限りです。これからも地域の一員として、地域の活動には積極的に参加していく生徒が出てきてくれ、自然と当たり前で環境美化ができる生徒が育ってくれればうれしいなと考えています」



福井県関係者および福井地方連絡会議員

北陸コカ・コーラボトリング(株) 広報環境部 部長 岡田 裕之氏(写真左)

「1部活動1ボランティアという大変わかりやすい参加で、部活動を通して地域住民と環境活動を行いながら、中学生がさまざまなことを学べる素晴らしい取り組みだと思いました。この受賞をきっかけとして、社中学校の活動が、福井県のみならず北陸全体に広がればうれしいです」

第15回 環境美化教育優良校等表彰 表彰校

最優秀校 (4校)

■ 文部科学大臣賞	岩手県	盛岡市立下橋中学校 ^{しものほし}
■ 農林水産大臣賞	徳島県	三好市立西祖谷中学校 ^{にしいや}
■ 環境大臣賞	熊本県	益城町立広安西小学校 ^{ひろやすにし}
■ 食品容器環境美化協会会長賞	福井県	福井市社中学校 ^{やしろ}



優秀校 (6校)

青森県	風間浦村立蛇浦小学校 ^{へびうら}	山形県	最上町立最上中学校
群馬県	高崎市立大類中学校 ^{おおるい}	大阪府	大阪府立豊中支援学校
兵庫県	姫路市立香呂南小学校 ^{こうろみなみ}	広島県	尾道市立吉和小学校

優良校 (32校)

北海道	羽幌町立天売小中学校 ^{てうり}	秋田県	男鹿市立野石小学校
福島県	田村市立緑小学校	茨城県	日立市立助川小学校
栃木県	市貝町立赤羽小学校	千葉県	八千代市立みどりが丘小学校
東京都	府中市立日新小学校	新潟県	新潟市立越前小学校
山梨県	甲州市立東雲小学校	長野県	長野市立東条小学校 ^{ひかしじょう}
富山県	上市町立南加積小学校	石川県	七尾市立東湊小学校
岐阜県	可児市立西可児中学校	静岡県	牧之原市立片浜小学校
愛知県	豊川市立西部中学校	三重県	津市立豊津小学校
滋賀県	近江八幡市立老蘇小学校 ^{おいそ}	京都府	京都聖母学院小学校
奈良県	広陵町立真美ヶ丘中学校	和歌山県	和歌山市立西脇小学校
島根県	出雲市立窪田小学校	岡山県	矢掛町立川面小学校
山口県	下松市立久保小学校	愛媛県	八幡浜市立双岩小学校 ^{ふたいわ}
高知県	土佐市立土佐南中学校	福岡県	福智町立市場小学校
佐賀県	唐津市立湊中学校	長崎県	壱岐市立盈科小学校 ^{えいか}
大分県	別府市立中部中学校	宮崎県	木城町立木城中学校
鹿児島県	奄美市立住用小学校 ^{すみよう}	沖縄県	うるま市立具志川小学校

■ 優秀校・優良校の表彰状等授与式の開催

第15回環境美化教育優良校等表彰事業において、全国の小・中学校の中から優秀校、優良校に選出された学校を表彰する授与式が各都道府県で開催されました。授与式は、受賞校の校長室や体育館、県庁及び市役所、公共施設などの会場で、学校関係者を始め、行政、地連、報道機関各位が見守る中、和やかに行われました。その様子と受賞校の活動内容を一部紹介いたします。

【優秀校】受賞校6校のうち2校を抜粋紹介

青森県 風間浦村^{へびうら}立蛇浦小学校

投石によるふのりの養殖法は、風間浦村が発祥の地で、大規模に行われている。この貴重な地域産業に関心を持ってもらうために、同校では20年以上前からふのりの収穫体験を実施。後継者育成の願いを込めて磯体験学習漁場が提供されるなど、地域の協力を得ながら、児童たちはふのりの成長や収穫量によって磯浜の環境変化などを体験し、郷土愛を育んでいる。ふのり採りの後は、地域住民や海への感謝の気持ちを込めて、海岸清掃を行う。こうした活動はすべて縦割り班で行われており、上級生は下級生の良い手本になっている。



「地元の特産であるふのり投石事業を通じた環境美化活動は、家族および地域コミュニケーションの形成につながるとともに、児童たちの地元の海を守る意識向上に結びついています」

授与式の出席者 ●青森県風間浦村立蛇浦小学校のみなさん
●青森地方連絡会議 成田 勇喜雄氏(みちのくコカ・コーラボトリング株式会社)

群馬県 高崎市^{おおるい}立大類中学校

豊かな自然に囲まれた同校は、環境保護の意識が継承されている。「大類中環境の日」を月1回定め、全生徒が参加してアルミ缶や廃食油などの回収に取り組む。家庭などから出た廃食油は、シルバー人材センターと連携して回収後、バイオディーゼルとして燃料化され、自治体の公用車やバスの燃料として使われている。また、年間通じて不要の靴や衣服を回収、NPO法人の協力で世界の国々に寄付。環境に責任と誇りを持とうと意識が向上した生徒は、地域住民や保護者といっしょに清掃活動や花の植栽にも率先して取り組む。



「大類中学校では環境を大事にしてきたという伝統があり、代々受け継いでいながらみんなで取り組んできたことが、今回評価されたことをたいへんうれしく思います。今後も続けていきたいです」

授与式の出席者 ●群馬県高崎市立大類中学校のみなさん
●群馬県環境森林部環境政策課 谷田 卓哉氏
●群馬地方連絡会議 山越 友晴氏(ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社)

【優良校】受賞校32校のうち4校を抜粋紹介

岐阜県 可児市立西可児中学校

自分たちで地域をきれいにしようと問題提起した生徒会が主体となって、通学路清掃やアルミ缶回収に10年以上継続して取り組む。通学路清掃については、生徒総会などで生徒会が全校生徒へ協力を呼びかけており、生徒のほとんどが毎週金曜日の朝に実践。「DE☆ボラ(でっかいボランティア)」の愛称で地域にも浸透し、住民と一体となった活動に発展。



「10年以上にわたり先輩から受け継いできた取り組みが認められてとてもうれしいです。今後は、さらに生徒の参加率を上げて、地域、そして世界に貢献できるような活動に広げていければと思います」

- | | |
|---|---|
| <p>授与式の出席者</p> <ul style="list-style-type: none"> ●岐阜県可児市立西可児中学校のみなさん ●可児市教育委員会 教育長 箆橋 義朗氏 ●可児市教育委員会 事務局長 高木 美和氏 | <ul style="list-style-type: none"> ●三重・岐阜地方連絡会議 佐伯 忠信氏(株式会社伊藤園)、奥堀 一世氏(コカ・コーライーストジャパン株式会社) |
|---|---|



愛知県 豊川市立西部中学校

校区内にある国の天然記念物に指定されている松並木の清掃や、近くを流れる音羽川の河川敷清掃に地域団体と連携して取り組んでいる。生徒会が主体となって平成16年から続いており、この活動を基盤に、生徒は地域の老人福祉施設と交流を深めたり、町内の運動会や祭りなどの催しの運営補助を行ったりと、年間を通した様々なボランティア活動に発展。

「10年以上前から継続して取り組んできた地道な活動が今回認められ、生徒の励みになりました。今後も地域と連携しながら環境美化に興味をもてる活動に積極的に取り組んでいこうと思っています」

- | |
|--|
| <p>授与式の出席者</p> <ul style="list-style-type: none"> ●愛知県豊川市立西部中学校のみなさん ●愛知地方連絡会議 西川 眞理子氏(ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社)、高橋 清一氏(コカ・コーライーストジャパン株式会社)、木村 宏氏(麒麟ビバレッジ株式会社) |
|--|

奈良県 広陵町立真美ヶ丘中学校

生徒会の自主的な企画として開始した校区にある「かつらぎの道」の落ち葉の清掃活動。ボランティアの募集や自治体の担当者との打ち合わせなどは生徒中心に進められ、教員はサポート役に徹しているのが最大の特徴だ。放課後の活動だが、多くの生徒が参加するなど、地域の環境美化に貢献している。活動を見守る住民からは感謝の声が多く寄せられている。



「生徒会の呼びかけで始めた環境美化のボランティア活動が認められて、驚きとともにうれしい気持ちでいっぱいです。この受賞をきっかけに、地域を巻き込んでさらに取り組みを広げていきたいと思っています」

- | | |
|---|---|
| <p>授与式の出席者</p> <ul style="list-style-type: none"> ●奈良県広陵町立真美ヶ丘中学校のみなさん ●奈良県くらし創造部景観・環境局 影山 清氏 ●奈良県くらし創造部景観・環境局環境政策課 中川 貴善氏 | <ul style="list-style-type: none"> ●奈良地方連絡会議 山名 裕之氏(ダイドードリンコ株式会社)、笠原 健氏(大塚製薬株式会社)、平田 恭史氏(麒麟ビールマーケティング株式会社) |
|---|---|



大分県 別府市立中部中学校

生徒会が主体となって取り組んでいるアルミ缶回収。各家庭のアルミ缶を毎月回収する活動とは別に、生徒が地域に出向いて回収する取り組みも行う。住民への文書作成や計画、アルミ缶の回収・積み込みなど地道な活動が続くが、生徒が引き取りに来るのを楽しみにしている住民も多く、交流の場となっている。活動収益金は、車イスを購入し老人ホームへ寄付。

「地域の方にアルミ缶回収などの協力を得ながら、生徒が真剣に取り組んでいる活動が受賞できたことをたいへん感謝しています。今回の賞金は、アルミ缶の保存整理用のカゴ購入に役立てたいと思います」

- | | |
|--|--|
| <p>授与式の出席者</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大分県別府市立中部中学校のみなさん ●大分県生活環境部地球環境対策課 ごみゼロおおい推進班 課長補佐 藤野 勝彦氏 | <ul style="list-style-type: none"> ●別府市生活環境部環境課ごみ減量係 専門員 田原 勇氏 ●大分地方連絡会議 主宰幹事 庄 不二夫氏 (ジェイエフズおおい) |
|--|--|

学校における環境学習の教材の一部として活用が出来ます。



「まちの美化」と「リサイクル」をテーマにした小学生用のサイトがあります！

まち美化キッズ

【サイトのご紹介】

「まち美化キッズ」は、食品容器環境美化協会が小学校高学年を対象に制作した学習 Web サイトです。児童たちの身の回りにある飲料容器「びん、かん、ペットボトル」を通して、環境美化・リサイクルの大切さや仕組みを「まち美化ってなあに?」「ポイすてストップってなあに?」「調べ学習コーナー」等、楽しく学べる構成となっています。



まち美化ってなあに?



ポイすてストップってなあに?



ホームページは
こちらから

まち美化キッズ

検索

<http://www.kankyobika.or.jp/kids>

